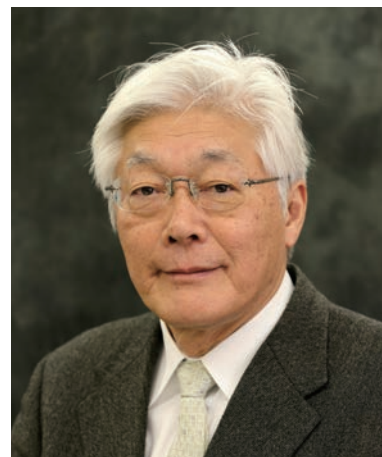


■ ご挨拶 ■

第76回日本医学放射線学会総会を開催するにあたって

第76回日本医学放射線学会総会 会長
信州大学医学部画像医学教室 教授
角谷 眞澄



第76回日本医学放射線学会総会を開催するにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

2017年4月13日(木)～4月16日(日)の4日間、神奈川県横浜市のパシフィコ横浜において開催される、第76回日本医学放射線学会(JRS)総会は、JRC2017として、第73回日本放射線技術学会(JSRT)総会学術大会、第113回日本医学物理学会(JSMP)学術大会、ならびに日本画像医療システム工業会(JIRA)運営の2017国際医用画像総合展(ITEM2017)との同時開催となります。

JRC2017は、放射線科医のみならず、他領域の医師、診療放射線技師、物理学者、生物学者、薬学者、工学者などが一堂に会し、多方面から最新の研究成果を発表し、討論する場であり、今回も2万人を超える来場者が見込まれます。

日本医学放射線学会は、1950年に設立された歴史ある学会です。2016年10月現在で、9318名の会員を有する世界的にも大きな放射線医学会です。最近では海外の放射線医学諸学会との交流にも力を注ぎ、世界に向けてのアピール活動も活発に行っています。JRS総会は、毎年春に開催される放射線医学全般を網羅する学術集会で、約5000名におよぶ全国の放射線科医が参加します。毎回優れた研究成果が発表されるため、社会の関心を集め、高い評価を得ています。放射線医学の発展に伴う質の高い研究が技術革新をもたらし、優れた放射線科医の活躍が全領域の診療レベル向上につながっていることが広く認知されつつある証と言えましょう。

我々の使命はここにあるとの信念から、今回は、「To the Summit of Radiology, To the Horizon of Radiology (極めよう放射線医学、広げよう放射線診療)」をテーマといたしました。

プログラムの基本的レイアウトは過去数年の総会を踏襲しています。発表形式は、一般演題(口演)、一般演題(電子ポスター)、教育展示、実機展示発表の4つに分けられます。いくつかの会場では英語のセッションが常に設けられています。合同シンポジウムや海外招待講演などは、可能なかぎり大きめの会場を用意しました。一方、教育講演や研修医セミナーも多くの聴衆が見込まれますので、アネックスホールや国立大ホールを用意しました。

本総会では、例年同様に、JRS、JSRTおよびJSMPの合同企画も予定しています。抄録集や発表スライドは原則英語になります。口演も約35%が英語化されています。こうした試みで海外からの参加を容易にし、国際化を推進することが目的です。一方、教育講演や研究発表の一部は日本語が使用されます。研究発表、教育講演によるリフレッシュ、そして実臨床につながる知識の習得など、充実した企画を準備しました。

JRS、JSRT、JSMP合同の特別講演1では、著名な元スポーツ選手をお招きし、対談を通してテーマ「極める、

広げる」に沿ったお話しをお聞きする予定です。特別講演2は今回に限定したのですが、量子科学技術研究開発機構理事長に就任された平野俊夫先生にご講演いただきます。また、3学会の合同シンポジウムは、「放射線医学・診療を極め、広げるために」、「放射線医療に関する国際規格・プロトコル」、「小児画像診断における被ばくの現状と課題」の3つを予定しています。

JRSとしては、名誉会員の表彰式 (Honorary Member Award Ceremony) を、3学会の合同開会式後に行います。また、特別企画として、「Special Project for QIBA (Quantitative Imaging Biomarker Alliance)」、「海外を目指す人へ (海外で活躍する日本研究者を囲んで)」、ならびに「画像診断ガイドライン2016:改訂ポイントと今後の方向性」の3つを行います。

海外招聘講演は29題を予定しています。この中は、Honorary Lectureと題した新たな名誉会員による講演が3題、すでに名誉会員になられている先生方による Special Invited Lectureが5題、RSNA会長による Lectureが1題、および Oversea Lectureが20題という構成になっていますので、楽しみにしていただきたいと思います。

シンポジウムは9つ企画しました。「新たな疾患総整理」、「PETによるがんの病態評価と治療戦略への応用」、「IgG4関連疾患の診断」、「肝細胞癌の治療戦略」、「高精度放射線治療と画像診断」、「早期肝細胞癌の画像・病理・臨床」、「乳癌の個別化治療時代に対応できる放射線科医を目指して：サブタイプを意識した乳癌の画像診断と放射線治療を極める」、「救急疾患における画像診断：そこはバント？ ホームラン狙い？ ～悩ましい症例から学んだこと」、そして「知っておきたいIVR技術：こんな時あなたの選択は？」です。いずれもメインテーマに沿った魅力あるものになっています。

教育講演は、38題を数えます。うち「医療安全・放射線防護」2題、「医療倫理」1題、「医療の質(診断)」1題、および「医療の質(治療)」1題の合計5題が、専門医試験受験あるいは専門医更新のための必須講習に該当します。

研修医セミナーは、「急性腹症の画像診断」、「小児画像診断：救急対応の画像を学ぼう」、ならびに「最近の放射線治療の進歩」の3つを企画しました。

恒例の Image Interpretation Session は、「めざせ Doctor GR ! : 世界に誇れる若手放射線科医から学ぶ」と題して、新たな企画で行います。新進気鋭の放射線診断医による画像診断の醍醐味を、メインホールを会場に楽しんでもいただきます。

「放射線医学の頂きをめざすとともに、優れた人材による放射線診療のさらなる普及につながる総会」となることを願って企画いたしました。多くの方々のご参加を心からお待ち申し上げます。春の横浜でお会いしましょう。

各国の放射線学会は、後に第1回ノーベル物理学賞を受賞したドイツのレントゲン博士がエックス線を発見した日にちなみ、11月8日を「レントゲンの日」と定めています。エックス線の大発見が放射線医学発展の礎となり、現在では、超音波、核磁気共鳴なども用いる「画像診断」、さまざまな放射線を利用して癌治療を行う「放射線治療」、さらには診療技術を利用して癌治療のみならず救急救命に応用される「画像下治療(IVR)」などの放射線診療が最新の医療として行われています。

2016年10月2日、松本市において、「なるほど！〈放射線診療〉まるわかり教室：大切な人のために、今知っておきたい放射線診療のあれこれ」と題して市民公開講座を開催しました。この公開講座では、信州大学医学部附属病院で活躍する放射線診療技師、看護師、放射線診断専門医および放射線治療専門医による講演「放射線診療ってなに？」、「どこまでわかる？ 放射線診断」、「安心できる放射線診療の流れと看護」、「教えて！ IVR・血管内治療：生検から救命まで」、「教えて！ 放射線治療：がんを切らずに治す」を行い、日常の医療における放射線医学の貢献を、市民にわかりやすく伝えました。また、その概要をレントゲンの日(11月8日)に地元新聞に掲載したことを付記いたします。